

脈々 ^{スピリッツ} 高蔵 魂

(創立者 市邨芳樹のことば)

「縁の下の力持ちに」

どんなに素晴らしい食材を使い、どんなに優れた調理の腕を持っていたにしても、一人で作り一人で食べる食事は味気ない。食べてくれる人がいて、初めて作りがいというもの生まれる。

お金を得るためだけに働くのではない。仕事を通して誰かの役に立ち、喜んでもらえるからこそ、働く意欲が湧く。

偉大ならんと勉むるよりは、善良ならんと勉むるを先とすべし。蓋し善良の人となるは如何なる事業にも勝れる大事業なればなり。

(「藪椿」 12-14)